

2007年度の企画展のご紹介

今年度も見どころたっぷりの様々な企画展を準備しております(所蔵品展の紹介は4ページ目です)。

4月1日(日)~5月9日(水)

プリンセスの輝き ティアラ展

— 華麗なるジュエリーの世界

ティアラとは、女性が正装の際に頭に着用するジュエリーです。最高の宝石に最先端のデザインと技巧を駆使した芸術品として、ジュエリーの最高峰にあります。このティアラだけに焦点を当てた展覧会は、日本では初めてです。ヨーロッパの王室や貴族、世界の美術館所蔵品に、高級メゾンの手がけたティアラまで、18世紀から現代までの至高の輝き約100点が、華麗な世界を作り出すことでしょう。さらに、ティアラを冠した女性たちの栄光と夢の物語にも想いを馳せることができるなど、ティアラの魅力を立体的に楽しむことができる展覧会です。



左/《マルゲリータ王妃のティアラ》メリリオ・ティ・メレー製作
1867年 アルビオン アート・コレクション
右/《ホワイトハウス夫人の勝利のティアラ》
1917年 個人蔵 ニューヨーク

5月26日(土)~7月16日(月)

始皇帝と彩色兵馬俑展

— 司馬遷『史記』の世界

『史記』は前漢の司馬遷が著した130巻にも及ぶ中国最古の通史です。本展では『史記』の歴史観を背景に、春秋・戦国時代から前漢・武帝時代までの約700年間に及ぶ、各時代を代表する彫塑、装飾品、武具など、厳選された120件を紹介します。出品作品の多くは日本初公開で、中でも全身に紀元前3世紀当時の彩色が残る兵馬俑、跪射俑は中国でもわずかに存在していない貴重な遺物であることから、中国国内でも常設展示はされていません。まさに本展での紹介が世界初公開となります。始皇帝から武帝の時代へ、壮大なる中国の歴史と驚異の地下帝国の一端に触れる貴重な機会となることでしょう。



左/《漢彩色騎馬俑 紅馬・大》前漢時代 前2世紀 漢陽陵考古陳列館蔵
右/《跪射俑》秦時代 前3世紀 秦始皇兵馬俑博物館蔵

7月28日(土)~9月24日(月)

魅惑の線・輝く色彩 — 落谷虹児展

新潟県で生まれた落谷虹児(1898-1979)は、竹久夢二の紹介で少女雑誌に絵や詩を発表し、その理知的でモダンな作風が読者の熱狂的な支持を得て、一躍人気スターとなりました。研ぎ澄まされた線によるペン画や、数々の雑誌を飾った華やかな表紙や口絵、瑞々しい色彩に溢れた絵本の挿絵は、大正から昭和にかけて多くの人々に愛されてきました。本展は詩画集や雑誌、絵本の挿絵原画の他、初公開の資料を含み、落谷虹児の仕事の全貌を紹介する大規模回顧展です。



上/《CUPIDを飼ふひと》(『令女界』14巻1号) 1935年 新発田市蔵
下/『はくちようのおうじ』挿絵原画 1956年 新発田市蔵

10月6日(土)~11月25日(日)

民衆の鼓動

— 韓国美術のリアリズム1945-2005

これまで日本では、韓国現代美術の例として、主として1960-70年代のいわゆるモノクローム絵画や、あるいは各地の世界展で活躍している同時代の若手アーティストの作品が紹介されてきました。しかし、その中間の時代である1980年代の美術については、ほとんど紹介されていません。この展覧会では、その1980年代に韓国でおこった美術運動である民衆美術に焦点をあて、韓国国立現代美術館およびソウル市立美術館の所蔵作品をもとに、1945年の解放以来の韓国美術の流れを、リアリズム系の作品を中心に追っていきます。



オ・ユン《父親》1983年 ソウル市立美術館蔵



イム・オクサン《排水口》1982年 ソウル市立美術館蔵

2006年5月13日(土)~7月16日(日)

印象派と20世紀の巨匠たち

—ベオグラード国立美術館所蔵フランス近代絵画展

- 今までとは違うユトリロが見られて良かった。ルノワールの作品がこんなにたくさん出品されているとは思わず感激した。(40代女性)
- 有名作家の普段着の作品、素顔の作品が多く、かえって新鮮であった。大作主義でないところが良い。(70代男性)
- セルビアが好きで、ベオグラード国立美術館の作品をぜひ見たかった。ゴッホ、モネなどの作品も多く見たかった。(30代女性)
- ルドンの絵が好きだ。またルドンの絵を展示してほしい。特に《眼/凝視》が気に入った。(10代女性)
- ルノワールの絵は、傷ついた場所がどこなのか分からないほど見事に修復されていて感心した。(30代女性)



2006年7月22日(土)~9月3日(日)

はばたく日本画 近代から現代へ

—佐久市立近代美術館所蔵日本画名品展

- 平山郁夫氏の《天山南路(夜)》に感銘を受けた。ゴーギャンの絵のようだ。(70代女性)
- これからも期待している。今日は着物着用于来館し、紙風船をもらった。(70代男性)
- 非常に良かった。ミニ解説が親切だと思った。ざっくりと日本画の歴史を追っていて飽きないし、疲れない。改めて日本画の素晴らしさを感じ直した。(20代男性)
- 佐久市立近代美術館が1983年設立なのに、これほどの見事なコレクションを有する歴史を、油井という方その他のご尽力あってのことと知った。それにしても素晴らしい展覧会だった。(60代男性)
- 知らない作家もたくさんあって興味深く見た。最後に、最年少の福井さんと締めているあたり、日本画全体への期待感が感じられた。(40代女性)



展覧会イベント Pick Up

講演会「フランス絵画の一世紀 —コローからルノワールまで」

2006年6月4日



ベオグラード国立美術館展の監修者でもある千足伸行さんに、展覧会に出品されている作品の時代背景や美術史の流れについて、講演をしていただきました。たいへん分かりやすいお話で大好評でした。

ワークショップ

「日本のかたちを楽しもう! —屏風」

2006年8月27日



出品作家の一人でもある福井江太郎さんを講師にお招きし、実際に屏風絵を描く子供向けのワークショップを開催しました。まずは展示室内や31階展望室で絵を描くコツを学んだあとは、みなさん思い思いの作品を制作しました。

「はばたく日本画」展 オープニング

2006年7月21日



展覧会の一般公開に先立ち、プレス向けの内覧会を開催しました。日本画の展覧会ということで、泉田知事は着物姿で来館し、新潟芸妓のみなさんも艶やかな振袖、留袖姿で作品を鑑賞していただきました。

ミュージアム・コンサート 「ロシア歌謡いま・むかし」

2006年9月17日



これまで全国大会などで数多くの賞を受賞してきた、名門・新潟中央高校コーラス部のみなさんに、朱鷺メッセ31階展望室で、ロシア歌謡のコーラスをお願いしました。赤いサラファンやカチューシャなどの懐かしい歌を、伸びやかな歌声で歌っていただきました。

博物館実習が はじまりました!

万代島美術館が開館して3年が経ち、ぜひ万代島美術館で博物館実習をしたい!という希望が多く寄せられるようになりました。博物館実習とは、学芸員資格を取得したい学生が博物館・美術館に実際に研修する実習のこと。教育実習の美術館版といったらいいでしょうか。その博物館実習のはえある第1期生として、全国各地から6人の大学生が参加してくれました。8日間の実習を通して、万代島美術館の良き理解者となってください。

その他、万代島美術館では、学校での団体観覧や職場研修などの受け入れも随時行っています。みなさんの美術館です。ぜひいろんな機会に活用してくださいね!



展覧会開催までの道のりについて真剣に聞き入る実習生たち。展覧会を実現させるのって大変だ〜。



取蔵庫に入って工芸作品の扱いを学ぶ。新潟出身の重要無形文化財であった工芸家・佐々木象堂の作品を実際に手にとって扱いました。



こちらは尾竹越堂の《桃太郎》。軸装された作品をおそろおそろ巻き上げて行きます。「タケノコ」にならないように左右均等に巻かなくてはなりませんよー。



実習の最後は、それぞれが考えた展覧会企画プレゼンテーション。展示の方法について、テーマの考え方について、みんなで議論しま



そして、晴れて実習終了!! みんなで記念撮影です。美術館にまた遊びにきてね〜。

2006年 9月9日(土)～11月5日(日)

ロマノフ王朝と近代日本 版画と写真でたどる日露交流
— ロシア国立図書館所蔵品より

- ロシアから見た日露戦争を描いた絵が興味深かった。(50代男性)
- 最後の方のハバロフスク市と新潟市の姉妹都市提携をした写真を見て、その2,3年後でしょうか、最初の婦人使節団として渡辺市長からハバロフスクへ5人派遣された1人(団長をつとめた)なので、とても懐かしく思った。(70代女性)
- 日本とロシアの国交、友好関係などは、東京で暮らしている自分には認識の薄いテーマだったのだが、観光の中継地として日航ホテルに1泊するにあたり訪れてみて、他の観光地を散策する以上に新潟という地を認識、実感できて良かったと思う。学芸員の解説も聞けて楽しめた。(40代女性)
- オリジナリティのある良い展覧会で楽しめた。(30代男性)



新潟大学管弦楽団のメンバーのみなさんに、チャイコフスキーのアンダンテ・カンタービレやポロティンの弦楽四重奏曲第2番などを演奏していただきました。

2006年 11月11日(土)～2007年 1月14日(日)

第2回 新潟の作家100人

- 岩絵具のことを教えていただきありがとうございました。今回はアジアにインスパイアされている作家さんが多くて素晴らしい。(40代女性)
- 写真家の話を伺いに来た。やはり作品が気になるとご本人はどんな人なのかと気になる。もっと県人の作品の紹介と、こうして生でライブで話を聴ける機会を増やしてほしい。いつもよい展示をありがとうございます。(40代女性)
- 今回の100人の作家展は作家本人の解説があり、どんなわらいでどんな思いでどんな技法を用いて、どのように格闘して出来上がったのかが分かりよかった。(50代男性)
- 作家のコメントがあり、その文体もさすがに上手く感心させられた。大変良いことと思うので、次回もコメントを付けてほしい。(60代女性)



ミュージアム・コンサート 2006年 10月15日
「チャイコフスキーとロシア音楽の夕べ」



新潟大学管弦楽団のメンバーのみなさんに、チャイコフスキーのアンダンテ・カンタービレやポロティンの弦楽四重奏曲第2番などを演奏していただきました。

ワークショップ 2006年 11月25日
「七宝焼ブローチを作ろう！」



新潟の作家100人展の出品作家でもある七宝作家の石山恵美子さんと石山悦子さんを講師にお招きし、本格的な七宝ブローチを作るワークショップを開催しました。みなさん初めての挑戦であったにもかかわらず、想像以上に美しく仕上がりました。

ミュージアム・コンサート 2006年 10月29日
「テルミンとマトリョミン」



ロシアで生まれた世界最古の電子楽器であるテルミンと、それをロシアの民芸玩具マトリョーシカの中に収めたかわいらしいマトリョミンのコンサートを、アンサンブル・ニチェボーのメンバーによる演奏で行いました。初めて見る不思議な楽器と不思議な音色に、みんな魅了されていました。

ワークショップ 2006年 11月25日
「あなたの写真が変わる!？」



新潟の作家100人展の出品作家でもある写真家の弓納持福夫さんを講師にお招きし、ご自身の作品の制作秘話などをお話いただきました。また、参加者が持ち寄った写真を1点1点解説していただき、実践的な写真技術についてのお話もありました。

外部評価検討委員会を開催しました。

自治体の財政難は、新潟県も例外ではありません。限られた予算の中でいかに県民のみなさんに愛される美術館にしていくかを、経営のプロフェッショナルもまじえて話し合いました。その白熱した議論の様子は、新潟県庁のホームページにアップロードされている議事録でご覧いただけます。「新潟県立美術館」外部評価」と入力して検索してみてください。
新潟県立万代島美術館が、ポール・ゲッツェイ美術館やヴィクトリア&アルバート美術館のような海外の大規模な美術館と今すぐ肩を並べるには、まだまだ遠い道のりですが、これからもますます、県民のみなさんに愛される、新潟が誇りとできる、チャレンジする美術館をめざして頑張っていきます。



2007年度は、企画展会期中は無休!

2007年度に万代島美術館が開催する企画展「ティアラ展」「始皇帝と彩色兵馬俑展」「落谷虹児展」「韓国美術のリアリズム展」の期間中は、無休で開館します。普段は美術館と同じ月曜日がお休みであるために美術館に来られないという方も、ぜひこの機会に美術館に遊びにおいでください。もちろん、この期間には、金曜日は午後8時まで夜間開館しています。昼間混雑している美術館でも、夜間開館の時はゆったりと鑑賞できるので、たいへんお勧めです!

美術鑑賞講座

万代島美術館では、美術館の開館以来、展覧会をより深く楽しめるように、そして美術鑑賞の面白さをみなさんに知っていただくこと、年間を通して美術鑑賞講座を開催してきました。2007年度もまた、4つの企画展に連動したものの他、様々な専門分野を持った当館の学芸員が、得意のテーマについて分かりやすくお話をしています。2007年度も、「身近な近代の記念碑を見直す」「武者小路実篤と『白樺』をめぐって」「第二次大戦後のアジア、ロシアの現代美術」「トルコ・イスタンブール美術散歩」「新潟が生んだ日本画家たち」といった興味深いラインナップです。

日時、会場などの詳細は、美術館ホームページあるいは電話にてお問い合わせ下さい。

所蔵品紹介

日高理恵子

「空との距離 II」 2002年 麻紙、岩絵具



作者の日高理恵子(1958年、東京生まれ)は、自宅の近所にある木の枝を見つめ描き続けることで、西洋的な科学的遠近法や空間的遠近法を排除し、自身の知覚を通じて感じられるその不安定な距離感を絵画空間として表現してきました。その結果、遠近法に支配されない心地良い空間を提示し、「視覚」ではない「知覚」を絵画化することに成功しています。

本作もその延長線上に位置する作品であると同時に、そこに新たな視点として空と枝との距離感も取り入れられた作品であり、「樹を見上げて》、《樹との空間から》から続く集大成的な代表作として捉えられます。鑑賞者に不安定な居場所に対する居心地の悪さとあわせて、重力から解放された自由な新鮮な体験を与える作品は、西洋美術の文脈を超越し、絵画の新展開を感じさせてくれます。こうした作品の特質から、オーストリアのグラーツのグンストハウス・グラーツで開かれた「日本の知覚」展にも出品しました。

2007年度の所蔵品展のご紹介

新潟県立近代美術館と新潟県立万代島美術館で所蔵している4,000点を越える作品の中から、テーマをもうけて新たな切り口で作品を紹介しています。意外な作品や隠れた名品に出会えるチャンスです。それに、観覧料は一般300円！ぜひとも気軽にお立ち寄り下さい。

ゴヤ版画展

2007年12/8(土) - 2008年1/27(日)

—「カプリチオス」「戦争の惨禍」連作を中心に

「カプリチオス」「戦争の惨禍」連作を一堂に展示する、新潟では初めての展覧会です。このたびの展覧会では、ゴヤの版画と共に、「戦争の惨禍」の手本となったフランスの版画家ジャック・カロによる「戦争の惨禍(大)」シリーズ、ゴヤの作品に強く影響を受けたフランスの画家エドゥアール・マネの作品、さらにはゴヤを熱心に研究した日本人画家である鳥海青児や須田国太郎の作品も、併せて展示します。



左/フランススコホセ・テ・ゴヤ・イルシエンテス《カプリチオス》1799年
右/フランススコホセ・テ・ゴヤ・イルシエンテス《戦争の惨禍》1810年代

美術の森 —小さな10の展覧会

2008年2/2(土) - 3/23(日)

当館が所蔵する一点一点の作品が秘めているメッセージをひもとき、映像・文字資料や比較作例を添えて展示します。10通りのテーマで作品を読み解く、いわば「美術鑑賞入門」といった展覧会です。この機会に美術館が所蔵する作品の歴史的意義や素晴らしさについて知っていただき、美術鑑賞の面白さを改めて感じていただければ幸いです。これまで美術館に何度も足を運んで下さっている方だけでなく、「美術館なんて入ったことないや！」という食わず嫌いのそのあなたも、きっと楽しめる展覧会です。



左/福田美蘭《ぶれちやつた写真(アムステルダム国立美術館)》2003年
右/中村彝《洲崎義徳氏の肖像》1919年

新潟県立近代美術館の企画展



2007年6/23(土) - 8/5(日) 東京芸術大学創立120周年記念

パリへ —洋画家たち百年の夢

黒田清輝以来、新しい表現と思想を求めてパリを目指した日本の洋画家たちの足跡を名作約100点によってたどります。

2007年10/6(土) - 11/11(日)

日本のわざと美展

重要無形文化財保持者、いわゆる「人間国宝」のわざや、文化財保存のための伝統的技術を、精選された作品と資料で紹介いたします。

2007年8/11(土) - 9/30(日)

藤城清治展 —光と影のファンタジー

藤城清治の半世紀以上に及ぶ影絵制作の軌跡を振り返る、展覧会です。約150点の作品を、鏡や水を使い、幻想的な世界で演出します。

2007年11/23(金) - 2008年1/14(日)

石川県立美術館コレクション展(仮称)

美術工芸の盛んな土地柄を生かしたコレクションで知られる石川県立美術館の所蔵品から、九谷焼や加賀友禅などの優品を紹介いたします。

〒940-2083 新潟県長岡市千秋3-278-14
TEL: 0258-28-4111(代表) <http://www.lalanel.gr.jp/kinbi/>

【開館時間】 午前9時～午後5時(観覧券販売は午後4時30分まで)
【休館日】 月曜(ただし月曜が祝日の場合は開館し、翌日休館)。年末年始。臨時休館あり。

※いずれも異動を含む場合は別途です。変更される場合があります。

新潟県立万代島美術館

The Niigata Bandaijima Art Museum

〒950-0078

新潟市中央区万代島5-1 朱鷺メッセ内 万代島ビル5F

TEL:025-290-6655 FAX:025-249-7577

URL: <http://www.lalanel.gr.jp/banbi/>

■ 開館日 午前10時～午後6時(観覧券発売は午後5時30分まで)

■ 休館日 月曜(月曜が祝日の場合は開館し、翌日が休館)、
年末年始、展示替期間

■ 観覧料 (所蔵品展)
一般/300円(240円) 大学生・高校生/150円(120円)
中学生・小学生/50円(40円)

※()内は20名様以上の団体料金。企画展は展覧会ごとに料金が異なります。
※障害者手帳・療育手帳をお持ちの方の観覧料は無料です。また、土日祝日は、小中学生の観覧料は無料です。

■ 観覧料免除 新潟県内の小・中・高校・特殊学校が、教育活動として美術館に団体引率をする場合、所定の用紙で事前に(見学の一週間前)申請をすることにより、観覧料が免除されます。図工・美術の授業、社会科見学、遠足などさまざまな形でご利用いただけます。

HOW TO ACCESS



■ 新潟駅から

■ バス (万代島バス乗場より「佐渡汽船」行(6番線)あるいは「新潟市観光循環バス」(13番線)に乗車。「朱鷺メッセ」下車) 約15分

■ タクシー 約8分

■ 徒歩 約25分

■ タクシー 約20分

■ 新潟空港から

■ 自動車(有料駐車場有り) 約20分

■ 新潟中央IC料金所から 約20分

■ 葉山ICから 約15分

■ 信濃川ウォーターシャトル(水上バス) 約50分

■ 新潟ふるさと村から 約50分

■ 新潟市歴史博物館から 約5分